

!!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。今月はこの方です。

第18医療群第18歯科中隊歯科助手
ともり けいこ
友利 恵子さん

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

歯科中隊の矯正科で、歯科助手を務めています。歯科医の助手として、治療道具の準備 片付け、患者の治療室への案内、また電話による診察予約も担当しています。

Q2. この職場に勤めてどのくらいですか？

11年間勤務しています。その前は、地元の歯科医院で歯科助手をしていました。現在の勤務時間は、月曜から金曜の午前7時から

午後4時まで。110人の職員がこの中隊に所属しており、その内の14人が日本人職員です。私自身、毎日20人から30人の患者と関わっています。嘉手納基地の歯科中隊は、在沖米軍の中でも大規模なので、海兵隊、海軍 陸軍の関係者も診察に訪れます。

Q3. この仕事のどのようなところにやりがいを感じますか？

診察 治療を通じて、患者の皆様を助けているという点に大きな喜びを感じます。また単に助けているということ以上にもっと大切なことは、治療前に患者の皆様が落ち着いた状態で安心して治療を受けられるようにすることです。そのためにも、治療前の患者とのコミュニケーションは大事ですね。些細な会話なんんですけど、緊張感をほぐしてあげて心理的にリラックスしてもらうことが大事です。そして最後に笑顔で帰ってもらう時が、嬉しく感じる瞬間です。

Q4. 日米の歯に対する健康への意識の違いはありますか？

米国本国では年に2度は定期検診するのが普通だそうです。そういう訳で、軍関係者の虫歯治療に対する意識は強い印象を受けます。例えば、健康のためにタバコを吸わない人も多くなってきています。幼少の時から歯並びを良くする為に歯列矯正器をしたり、日本人には可愛く見える八重歯も早期に矯正する方もいます。虫歯予防のために基地内の水道水にはフッ素も含まれています。また一度に4本の親知らずの歯を取ってもらう患者もいました。

Q5. 基地内で働く環境で、一番の課題は何ですか？

軍人 軍属 家族 児童など患者の年齢層や診察内容も幅広いので、それぞれのケースに応じて、適切な会話を交わして治療ができるよう対応することです。また診察 治療に関する英語の専門的用語の勉強も欠かせません。自分で調べたり、他の日本人職員と情報交換して理解を深め、その専門医療用語を患者に対して直接使用するのではなくて、その症状を容易な英語に置き換えて患者に説明して理解してもらうことです。

Q6. 同じ職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

歯科助手になるための特別な医療資格 試験は必要とされませんが経験者であることが望ましく、高卒以上で英検2級以上が要求されます。最も大事なことは、患者とのコミュニケーションができる人です。ある意味では病人を相手にしていることなので、話すことによって患者の気持ち 容態を理解することはとても大事です。その際には明るく笑顔で接することも大切です。



(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



SACRED SITE



元屋敷跡



U.S. Air Force Photo



U.S. Air Force Photo



U.S. Air Force Photo



嘉手納基地広報局：喜久原尚子撮影

嘉手納基地内の拝所参拝プログラム

第18航空団広報局

沖縄では五穀豊穣、健康祈願や繁栄のため参拝する場所、ウガンジユやウタキ（御嶽）と呼ばれる拝所があることはよく知られていますが、嘉手納基地内にも戦前からの文化財や地域の拝所が至る所に残っています。拝所には墳墓、旧墓、元屋敷跡やビジュルなどがあり、地元の方々が参拝される際の立入り手続きを、参拝プログラムと称し、第18航空団広報局涉外部が各市町村の担当窓口を通して調整しています。参拝日は毎週金曜日(米国の公休日や米軍の行事を除く)の午前9時から午後4時までの2時間以内、立ち入りの際の車両は2台までと設定されています。例外として、郷友会などで行う伝統的な旧暦行事、例えば旧暦9月9日のクングワチクニチ(菊酒)などの参拝は、金曜日以外でも受付を行い調整しています。参拝希望者は参拝日の遅くとも2週間前には各市町村の窓口(基地対策課、基地涉外課等)に所定の申請書を記入の上、身分証明書(免許証等)のコピーと一緒に提出する必要があります。それから同窓外部へ書類が転送されてきます。その後、米軍内部では立ち入り許可の手続きを取り、エスコートボランティアとの調整を始めます。参拝者をエスコートする部隊は予め決められており、参拝日には各担当部隊のボランティアが、ゲートから参拝場所を案内し最後までエスコートをします。エスコートボランティアには、同窓外部から事前にエスコート手順、参拝する場所や参拝者への配慮などを説明しています。基地内には滑走路付近を含め、軍人や日本人従業員でも立入り制限のある場所があり、参拝される方がどこで参拝を希望しているのか把握することが大切で、参拝希望者は各市町村の窓口担当者の方に明確な参拝場所を伝えることが必要となってきます。所定の拝所立入り申請書は各市町村の担当窓口で受け取ることができます。

米国人にとっては、地元の伝統的な信仰行事を見る機会が殆どないため、このプログラムを通して、初めて沖縄の祖先崇拝信仰を垣間見ることができたと話すエスコートボランティアもいます。地元沖縄では古くからある「拝み」の文化ですが、多くのエスコートにとっては新鮮で興味深い事のようです。2001年の同時多発テロを受け、嘉手納基地へに入る手続きが厳しくなり、この拝所参拝プログラムが誕生しました。他府県に駐留する米軍基地にはないユニークな手続きです。沖縄独特の風習を重んじるとともに米軍基地の保安管理を維持できる方法で、更にボランティアとして直接関わった軍人達にとっては、沖縄の人々の土地や祖先に対する深い思いに直に触れる貴重な体験となっています。

